

夏のある朝。

いつもと変わらぬ波を楽しみ、

海から戻ったあなたは、濡れた髪のまま町へと歩きます。

ふと、町の光景に目を向けると、

以前は空き地だった場所に、小さな食堂が、ぽつんとあります。

お店の入口には、会ったこともない、話したこともない子どもが

「今日のスープは、朝採れたとうもろこしだって」

と教えてくれます。

中には、町で暮らす人、町を離れた人、今日初めて会う人がそれぞれ
同じテーブルを囲んでいます。

窓の外からは、海の音と昔から変わらない「町の音」が聞こえます。

そんな2050年の厚真町の朝、

あなたは、誰と過ごし、

誰と会話しているでしょうか。

「この取り組みは、厚真町の未来を自分ゴトとしてとらえ
関わる方々とともに

未来を想像し、

よりよい社会を創っていくための

壮大な実験。

未来を

考える
創る

SE

プロトタイピング

「

」

」

」

この先は、まだ何も決まっていなない真っ白な厚真町。
これからの未来を共に創るための入り口は
こちらから。



未来を

考える
創る

SF

プロトタイピング